

令和4年度がスタートしました。今年度は2コース6フィールドによる新たな教育体制に加え、夏の校舎移転と、将来を見据えた新生龍谷構築の大きな節目の年となります。

その過程を出来る限りリアルタイムに伝えられるよう、校長室からも日頃の「雑感」を簡単に綴ってまいります。ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.64

R4. 9. 5 「全道学校書道展（高文連）の特選に5名が入賞！」

札幌東陵高校にて厳正な審査が行われ、本校から5名が「特選」に選ばれました。本校書道部の歴史は古く、これまでも数々の実績を重ねてきました。また、学校説明会での歓迎イベントや地域からの依頼等も多く、展覧会以外のパフォーマンスでも多くの人を楽しませてくれています。

3年生の前部長 橋本 菜奈美さんは、兄の影響から書道を志したそうです。今回の作品は「空海の灌頂記」、3年間の集大成となる力作です。「3年間、書と向き合う中で多くのことを学びました。また部長としての苦労もありましたが、仲間とともに自分自身が成長できたことが何よりの宝物です。」と笑顔で語ってくれました。



同じく3年生の丸田 彩乃さんは前副部長、橋本さんをサポートしながら部の活性化に努めてきました。今回の作品は北魏に盛んに行われた造仏の由来などを記した「造像記」。「書の魅力は、同じ書体でも書く人によって作品が異なるところ。文字の一つ一つに表情があり、書く人の個性が表現される作品と触れ合う中で、自分自身の心も豊かになったように思います。」この言葉からも、書道などの芸術には感性を豊かにする力があることがよくわかります。

新たに部長になった2年生 折田 峰夏さんは中学時代に書に魅了され、それ以来、書に打ち込んできました。「書道部には、皆で作品を仕上げたり語り合う楽しい時間と、作品制作に真剣に向き合い集中する時間とが混在し、そうしたメリハリが自分には合っています。」という言葉にも、書に対する真摯な思いが感じられます。高野山競書大会においても「朝日新聞社」賞を受賞するなど、全国でも指折りの実力の持ち主だけに、今後の書道部の活躍が益々楽しみです。

同じく2年生の阿部 まひろさんは、何気ないきっかけで入部したそうですが、「努力すればするほど、上達していく自分を感じられることが楽しい。また、苦楽を共にした先生や仲間との絆はかけがえのないものです。」と、いまや書道部は心の拠り所にもなっています。「作品制作の中で、自分の思いどおりに筆を動かすことができ、一体感が感じた時に充足感に満たされます。」と書の深い魅力を教えてくれました。

男子部員の2年生 石本 陸十君は、尊敬する先輩の影響から入部したとのこと。今大会も、その先輩から以前指導を受けた古典の臨書で見事特選を受賞、「よい恩返しができました。」と語ります。「自分の字を見ながら自身の成長も感じられるし、書を通して多くの仲間と交流することもできています。今後はパフォーマンスの進化にも力を入れ、書道

の魅力をもっともっと伝えていきたいです。」と抱負を語ってくれました。

One for all, All for one. No.65

R4. 9. 8 「新校舎から見える夕焼け」



秋の気配が漂い、日没も日ごとに早まってきました。

帰り際、ふと2階の廊下から外に目をやると、何とも美しい「夕焼け」に出くわしました。あまりの美しさに印象派の絵画でも見ているような心持ちになり、しばらく時間が経つのを忘れた程です。

旧校舎でも思いがけない発見はありましたが、新校舎にも魅力ある事象があちこちに隠れていそうです。

生徒の皆さんには、この新たな環境に早く溶け込み、良い思い出を沢山作ってくれることを願っています。

One for all, All for one. No.66

R4. 9.11 「NHK全国学校音楽コンクール」

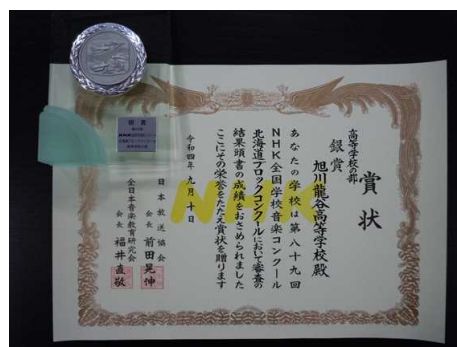


先月、支部大会金賞受賞のご報告をしました合唱部が、10日に札幌カナモトホールで開催された全道大会に、支部代表として参加してきました。

全道大会には、各地区を代表する強豪校が勢ぞろい。初参加の本校合唱部にとっては大変なプレッシャーであったことでしょう。とは言え、終わってみれば金賞の札幌北高（全国コンクール出場校）に次ぐ、「銀賞」（2位にあたる成績）を受賞。全国出場まであと一歩という見事な成績を残してくれました。

ふと、支部大会優勝後の対談で、坂東部長さんが語ってくれた言葉を思い出します。「私たちにとっては初めての全道大会、他校のことを気にかけることなく、自分たちがやってきたことを信じ、気負いなく普段どおりに歌うだけです。」

その言葉どおりに歌うことができた合唱部の皆さんは本当に凄いです！誰もが認める本当の実力の証となる結果でした。



One for all, All for one. No.67

R4. 9. 12 「陸上競技部が道北選手権で大活躍！」

11日（日）に深川市陸上競技場で行われた伝統ある大会「道北陸上選手権」で、本校陸上競技部が好記録を連発。多くの入賞者の中から、代表して4名の選手から話を伺うことができました。

男子 100m で大会新記録 (GR) を出した 2 年生 安藤 迎君は、「オリンピックメダリストの高平 慎士さんの記録を超えたことは、素直に嬉しいです。ただ、全国には自分より速いタイムの選手がまだまだいます。これに満足することなく全国大会で優勝できるよう頑張ります。」とさらなる飛躍を誓ってくれました。「叔父さんも本校OBで高校柔道の全国チャンピオン、次は自分が陸上で。」という言葉が実現するのも間近かもしれません。



跳躍競技では、2 年生の須藤 ひなたさんが「走り幅跳び」と「三段跳び」で見事 2 冠を達成。「自分の記録を更新することが目標。優勝の喜びもありますが、全道全国には好記録の選手が大勢います。とにかく記録に拘っていきます。」跳躍のスペシャリストだけに、細かな足の動きにも留意するなど、課題克服にも余念がありません。人柄も後輩から慕われる頼もしい先輩であることがよく伝わってきました。

また、棒高跳びで優勝した 1 年生 岸 菜月さんは香川県の出身。北海道での競技人口はまだ少ないですが、地元香川では小学生から始める人も多いほど盛んな種目だそうです。「競技の魅力はなんといっても流れるような姿勢で体が宙を舞うところ。地元を離れていても先輩たちと競技ができる日々が楽しいです。」と語ってくれました。試合ごとに記録を伸ばし続け、大きな可能性を秘めている選手だけに、今後は益々楽しみです。

中長距離走での注目選手は、1 年生の船奥 千代さん。入部当初は足の怪我に悩まされ練習もできない日々が続きましたが、けして弱音を吐くことなく地道に積み上げてきた努力が今回の 800m 優勝につながりました。「中学時代はテニス部、陸上選手としての自分の記録は全道ではまだ通用しません。もっともっと頑張らなければと思います」と、優勝という言葉に惑わされず、謙虚に先を見据え努力を惜しまない姿に感銘を受けました。

One for all, All for one. No.68

R4. 9.12 「フィールドスタディ」

1 年生が、総合的な探究の時間に「フィールドスタディ」を実施しました。この取組は、個々の興味・関心のある地域企業を訪問し、就業内容、企業の在り方、地元ゆへの課題等について生徒同士で探究していきます。多種多様な職業を探究することで、「働くことの意義」「人生設計」「将来の生き方」等について考えることを趣旨としています。



ご協力いただいた企業は31社、訪問型と来校型に分かれ、生徒はそこでの見学や説明を五感を使って体感します。

将来を決めるのは容易なことではありません。知識を持つだけでなく、直に聞いたり、見たり、感じたりする中で、将来の姿がイメージすることが大切です。生徒たちが潜在的に持つ可能性は無限です。このような活動を通して、新たな自分を発見してもらえることを期待しています。



One for all, All for one. No.69

R4. 9.14 「生活安全教室」

全校生徒を対象に「薬物乱用防止」に係る講話を実施しました。講師の旭川刑務所法務教官 今井 貴裕様からは、薬物の恐ろしさや誘惑にのらない強い意志の必要性などについてご講話をいただきました。

今回の集会は、コロナ対策から2・3年生は体育館、1年生は教室とハイブリッド形式で実施しましたが、生徒はそれぞれの場所で真剣に耳を傾けていました。



One for all, All for one. No.70

R4. 9.15 「教育実習生による研究授業」

教育実習生の本校OB 小村 元紀先生の研究授業を見学させていただきました。

小村先生は本校のキャリアデザインコースから現役で旭川教育大学社会科に進学され、現在は大学3年生になります。高校当時は柔道部でも活躍され、3年間立派に文武両道を実践されてきました。

元来、人と接するのが好きで自分の経験を少しでも子どもたちに伝えたいという思いから、教職の道を志したそうです。

研究授業は、今年度から必須となった「公共」。多くの先生方が参観する中、堂々と、しかも丁寧でわかりやすく、実習生とは思えないほどの素晴らしい授業でした。

未来に羽ばたく多くの子どもたちの為にも、良き教師を目指し頑張ってください。



One for all, All for one. No.71

R4. 9.16 「日独国際交流」

本校では国際交流事業にも積極的に取り組んでいますが、ここ数年、コロナ禍により対面形式での交流事業が一切できませんでした。このたび「旭川ドイツ交流協会」のご協力のもと、久しぶりに文化交流を実施することができ、生徒たちにとっても大変貴重な体験となりました。

今回来校されたのは11名、年齢も20歳代から30歳代、大学生から社会人に至るまでと様々ですが、「交流を通して共生社会における地域づくりを考える」という同一の目的を有してドイツから来日されました。

文化交流では、書道部の皆さんによるパフォーマンス、半紙や団扇への揮毫体験、漢字や仮名の成り立ちなどバラエティーに富む内容に、来校されたドイツの皆さんからも大満足の声をもらいました。



今後も様々な国々の皆さんとの文化交流を通して、生徒の視野をより一層広げていきたいと思います。「書道部の皆さんのご協力に感謝します！有り難うございました！」

One for all, All for one. No.72

R4. 9.20 「夏に続き、秋季大会も全道へ」



18日に行われた高野連秋季大会代表決定戦は、壮絶な打撃戦を制した本校野球部が夏の大会に続き見事全道への切符を手に入れました。保護者の皆様をはじめ、多くの生徒や教職員の応援する中、選手たちは最後まで粘り強い好プレーを見せてくれました。

主将の2年生 多羽田 墨君は、「先輩方の教えを引継ぎ、

そこに新たな個性を織り交ぜ、活力あふれる攻撃的なチームを目指したい。」と今後の意気込みを話してくれました。練習に「全球全打」と言われるバットコントロールにつながるメニューを取り入れたのもそうした思いの表れかもしれません。

副将の2年生 黒田 龍君は、「決勝でも普段通りの気持ちで試合に臨めました。一時劣勢になりましたが、全選手が勝ちに拘り必ず逆転するという強い思いがありました。」と試合を振り返ります。逆転後も気を緩めることなく、全員が一球一球に集中してプレーできたことが勝因と語ります。



同じく副将の2年生 松木 優弥君は、今大会9打数6安打と持ち前のバッティングセンスを思う存分発揮してくれました。「チャンスに打順が回ってくると、気持ちも高ぶり、燃えに燃えます。バッティングが好きな自分にとっては、チャンスで打つことこそが野球の醍醐味です。」と、全道でもクリーンナップから目が離せません。

後輩の面倒見が良いと評判の野球部も大所帯となり、現在はマネージャーさんを募集中とのこと。自己への厳しさと他者への優しさを兼ね備えた野球部員の全道大会は、今月末から札幌で開催されます。

「1試合1試合に集中し、全力で頑張ってきます！」と声を揃える選手の姿は、本当に頼もしい限りです。

One for all, All for one. No.73

R4. 9.21 「全日本バレーボール地区予選、3連覇！」

18. 19 両日に行われた選手権大会地区予選で、本校バレー部が3連覇を果たしました。今大会は1セットも落とさない完全勝利、全道大会に向け弾みをつけました。



今回は固い結束で繋がる、3年生の成田 いちごさん、石川 寧々さん、土崎 若菜さん、梁田 詩友さん、松下 鈴さん、島田 悠夏さんの面々に話を伺いました。

Q：本校のバレー部はどんな特長を持つチームですか？

A：総じて攻撃的なチームですが、決して諦めず粘り強くボールをつなぐことも大切にしています。今大会では、特にブロックに練習の成果が出ました。

Q：練習時の雰囲気はどんな感じですか？

A：先輩後輩の上下関係がなく、互いに相手を尊重し、気持ちを慮ることで、真の信頼関係が出来上がっています。試合中の意思疎通や、一つ一つのプレーの考えや意図を皆で共有することができます。

Q：練習以外で心がけていることはありますか？

A：部活動を通じて学んだことが沢山あります。周囲を見て冷静に判断すること、礼節を重んじ他者を敬うこと、いつも多くの人に支えられていることなどです。その思いを日常生活に生かすことが、人間的にも社会の一員としても成長できると感じています。

Q：全道大会に向けての抱負を教えてください？

A：平常心を忘れることなく、粘り強く、チーム一丸となってボールをつなぎ続けます。
3年間学んできたことを全て出し切りつもりで頑張ってきます。



どんな辛い練習でも、終わった後はいつも笑顔を忘れない。誠実で、明るく、仲が良く、助け合い、人の思いを大切にする、そんな言葉がすべて当てはまるバレーボール部の皆さんでした。

「高校生活全てで他の生徒たちの模範です。」と、先生方が口を揃えるのにも頷けます。

部活動に勝敗はつきものですが、教育本来の目的は部活動を通して人間性や社会性を培うことにあります。本来の強さを秘めた部員の皆さんには心から敬意を表します。

One for all, All for one. No.74

R4. 9.21 「合唱部、全道大会で金賞受賞！」

17日に函館で行われた「北海道合唱コンクール」で見事「金賞」を受賞した合唱部の皆さん。

昨年までは全道大会への出場が目標でしたが、今年「NHKコンクール」で早々とその目標を達成し、今回は金賞を受賞、さらには全国大会出場を果たせなかった悔しさに涙するまでに、大きく成長しました。飛躍的に進化し続ける合唱部の3年生の皆さんにその秘訣を伺いました。



嶋津 優衣さんは、強豪校が集う大会に当初は緊張したそうですが、NHKコンクールでの経験から普段どおりに歌うことに努めたそうです。「全道では歌声を競い合うだけでなく、他校の様々な発声練習や歌い方を見ることができとても勉強になりました。高いレベルの中だからこそ見えてくる課題もあり、今後の練習に活かしていきたいと思います。」と次の高文連への意欲を語ってくれました。

菊川 綾乃さんは、小学校時代に合唱の歌声に感動して以来、ずっと歌うことを続けてきました。「高校では、個々に声質も発声の仕方も変化してきますし、部員数も多く、中学までの合唱とは異なり統一感を出す難しさがあります。また、歌詞を深く理解し、それをどう表現していくかも大きな課題の一つです。」と本質に迫る話をしてくれました。

戸田 渚さんは、「合唱の魅力は、各パートが異なる音域や音の強弱を持ち、それがバランスよくかみ合うことで美しいメロディを奏でるところ。」と言います。そのために、同じパート同志はもちろん、異なるパートとも何度も話し合いを行うそうです。「パート独特の歌い方や他のパートを聞きながら合わせる歌い方など様々です。」と、改めて合唱の奥深さを知りました。

山口 紗葉さんは、「本校の合唱部は個性豊かな人ばかりで、学年の隔たりもなくフレンドリー、皆でいつも明るく楽しい活動をしています。」と、練習や大会が重なり多忙な時でも部内は笑い声が絶えないそうです。「3年間、この部で活動できたことが何よりよい思い出です。みんなで高文連に向け、悔いないよう頑張ります。」と抱負を語ってくれ

ました。



部員数も増え続け、澄み切った美しい歌声にさらに磨きがかかります。とにかく多くの方々に是非聞いてもらいたいほど、素晴らしい感動の歌声なんです。

One for all, All for one. No.75

R4. 9.26 「男子バスケ部、初の全道！」

練習で力をつけながらも、コロナ禍の影響で公式戦にはなかなか臨めず、長い間苦渋の思いをしてきた男子バスケット部が、今月17日から行われた選抜大会地区予選で準優勝を勝ち取り、ようやく全道への切符を手に入れました。

現チームは課題とするディフェンスの強化を目標に、スピード、当たり負けないフィジカル、持久力を日々の練習でしっかりと身につけてきました。また、個々に考える時間を設け、自らの課題を主体的に克服していく取組も功を奏し、チーム強化に繋がっています。

得意とするオフェンスでは3ポイントシュートに力点を置くなど、バランスの取れたチーム作りを目指しています。

11月に室蘭で開催される全道大会ではチャレンジャーとして、自分たちの思い描くプレーを思う存分発揮してきて欲しいと思います。



One for all, All for one. No.76

R4. 9.26 「ラグビー部、北北海道大会準優勝！」

21日から東光スポーツ運動公園で行われた北北海道大会決勝、5連覇をかけ全力で臨んだ試合でしたが、技術、体力、組織力全てにおいて目を見張るプレーを継続した、名門北見北斗高校に惜敗しました。



とは言え、4年連続で花園出場を果たした実績は大いに讃えられるべきものであり、今回は挑戦者として、再び王者の称号を奪回してくれるものと信じています。

今大会で最も印象に残ったのは、本校のラグビー部主将 水口 遥太君のキャプテンシーです。礼節、練習に臨む姿勢や集中力、劣勢の時にチームを鼓舞する掛声や笑顔、試合後に相手を讃える態度、どれをとっても真のラグーマンとしての誇りを感じました。

スポーツには勝敗がつきものですが、それ以上に大事なことはラグビーを通して何を学ぶかだと思います。例えば挨拶一つをとっても、挨拶の意義を理解し自主的にする挨拶と、誰かに言われてする挨拶や周囲に合わせてする挨拶とでは根本的に意味合いが異なります。

後日、水口君と話す機会がありましたが、高校生



とは思えない程、素晴らしい人間性や社会性を身につけていました。試合に負けた悔しさはあると思いますが、彼の高校でのラグビー人生には全く悔いはないものと確信します。今後もさらに大きな人間を目指して頑張ってくれることでしょう。

One for all, All for one. No.77

R4. 9.28 「後期生徒会総務役員」

21日に後期生徒会役員選挙が行われ、新会長に2年生 本村 啓州君が選ばれました。本村君は前期でも書記長として、前生徒会長 小川 安さんをサポートしてきただけに、生徒会活動のことをよく理解しています。

今回、新たに副会長に信任された2年生 打田 翔恭君と加藤 壮真君も一緒に話を聞くことが出来ました。



本村会長は、「去年は、コロナ禍で例年どおりの生徒会行事ができず、試行錯誤や工夫を重ねながら企画・運営にあたりました。どの行事を考案するにも大変な労力を要しました。」と、総務役員の皆さんの労苦を振り返りました。既存の企画とは異なり、新しい取組はすべてゼロからのスタートですから、その大変さがよくわかります。

「まずは在校生みんなに生徒会の仕事を理解してもらい、皆の力を借りて一緒に創り上げていけるようなシステムを考えたい。」と声を揃えます。他にも、「地域の方々からの苦情のない学校づくりを目指す」「挨拶の励行など出来ることから始める」「自分の考えをしっかりと皆に伝えていく」など、さらにバージョンアップした取組が期待できそうです。新たな生徒会総務部を、みんなで応援していきましょう！